

研修名 幼児教育・保育

平成 29 年 8 月 21 日（月） 13：30～16：00

演 習 「わくわくする造形あそび」

講 師 聖徳大学 奥村 高明 氏



1 講演要旨

1) 子どもの絵の見方

○子どもの絵を上手に読み解く

- ① 近づく（部分を見る、子どもの描いている距離で見る）
- ② たどる（順番をたどる、プロセスを再現する）
- ③ 考える（作文や題名、対話などを手がかりに見る）

○子どもと上手に語り合う

- ・「上手ね」「全体をほめる」は×、ポイントは「部分」
- ・「言う」より「聞く」
- ・感じたことをそのまま言葉にする「気持ちいいな」「かぎってみたいな」「もっとみたいな」
- ・子どもが自分の絵を持ってきたときに真っ先に行なうことは認めること。

2) 「かけがえのない存在」は誰か？

- ・かけがえのない子どもにするには、子どもがやったことを認める存在（大人）が必要である。

3) 手作り絵の具

- ・チョークを削り、その粉と水とのりを混ぜて、絵の具を作る。



4) 手作り帽子

- ・針金で型を作り、アルミホイルを巻いて帽子を作る。

2 感想

チョークから絵の具を作ったり、針金とアルミホイルで帽子を作ったりとどれも手軽にできるものでとても面白く感じ、チョークが絵の具に変わる瞬間は子どもの気持ちになって楽しむことができました。また、「子どもの絵の見方」として学んだ声のかけ方（喜びの共有・子どもを認める・感じたことをそのまま言葉にする）は、絵を見るときだけでなく、普段の保育の様々な場面でも、大事な事だと感じました。今回の研修を受けて学んだことを、今後の保育に活かしていきたいと思います。

（記録 登りこども園 小山智香）